

1 研究主題

**「関わり合う楽しさを実感しながら、
主体的に思いを伝え合おうとする児童を育む外国語教育の研究」
～学習指導要領における言語活動と評価の充実を通して～**

2 主題設定の理由

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の職種に限らず、様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上がこれからの課題となっている。小学校教育においては、本年度4月1日より、外国語科・外国語活動の全面実施が始まった。中学年では外国語活動で「聞くこと」「話すこと」の活動を中心に外国語の音声に慣れ親しみ、外国語学習への動機づけを高めていく。高学年では音声言語に加え、段階的に文字を「読む」「書く」に慣れ親しむことを総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視している。また、学習指導要領には、子どもに育成すべき資質・能力の柱の1つである「学びに向かう力、人間性等」において、外国語科で「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と、外国語活動で「外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と明記された。これは、外国語を通じて他者とコミュニケーションを図り伝え合う力を高めることで、積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者と共感するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度を育成していかなければならないことを示している。

本校では、平成30年度に佐賀県研究指定を受け、これまで2年間、外国語教育の充実に取り組んできた。昨年度は言語活動の充実を目指し、日常的に英語に触れることのできる環境づくりや、ゴールの活動で互いの考えや気持ちを伝え合うことで、気づきをもつことのできる活動を仕組んできた。その結果、英語に慣れ親しみ、積極的に英語を話そうとする姿や、慣れ親しんだ言語と非言語での情報を組み合わせて何とか相手に自分の考えや気持ちを伝えようとする姿が見られるようになった。また、相手の様子を見て、理解を確かめながら伝えようとする姿や、相手の話を聞いて、相づちをうったり簡単な感想を返したりする姿も見られるようになってきた。このように、自信をもってやりとりを行っている一方で、慣れ親しんだ表現のみでの形式的なやりとりになっていたり、一方的なやりとりになっていたりする場面もしばしば見られる。その上、互いの考えや気持ちを聞き、理由を尋ねたり、さらに詳しく話したりするまでには至っていない。よって、このような課題を解決しつつ、外国語科・外国語活動の全面実施に伴い、児童が安心して取り組んでいけるよう、厳木小学校の実態に即した目標・指導・評価の在り方も構築していく必要がある。

そこで、3年次となる今年度は、互いの考えや気持ちを伝え合う「言語活動」を中心とした授業づくりと、学習指導要領に基づいた目標・指導・評価の在り方に焦点化し、研究を深めていきたい。自分の思いを伝えたい、相手の思いを知りたいと思う活動の設定を行うことで、児童は、「相手によりくわしく思いを伝えるためにはどうしたらいいか」「知っている簡単な英語を駆使し、工夫して伝えよう」と、思考を働かせる姿が期待できるであろう。また、指導と評価を一体化させ、コミュニケーションを育むための手立ての工夫を行うことで、会話を続けたり話を受けて質問したり答えたりする姿が期待できるであろう。このような手立てを積み重ねて指導を行なっていくと、関わり合う楽しさを実感しながら、主体的に自分の思いを伝え合う児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

関わり合う楽しさを実感しながら、主体的に思いを伝え合おうとする児童を育成するために、互いの考えや気持ちを伝え合う「言語活動」を中心とした授業づくりを行うとともに、学習指導要領に基づいた目標・指導・評価の在り方を探る。

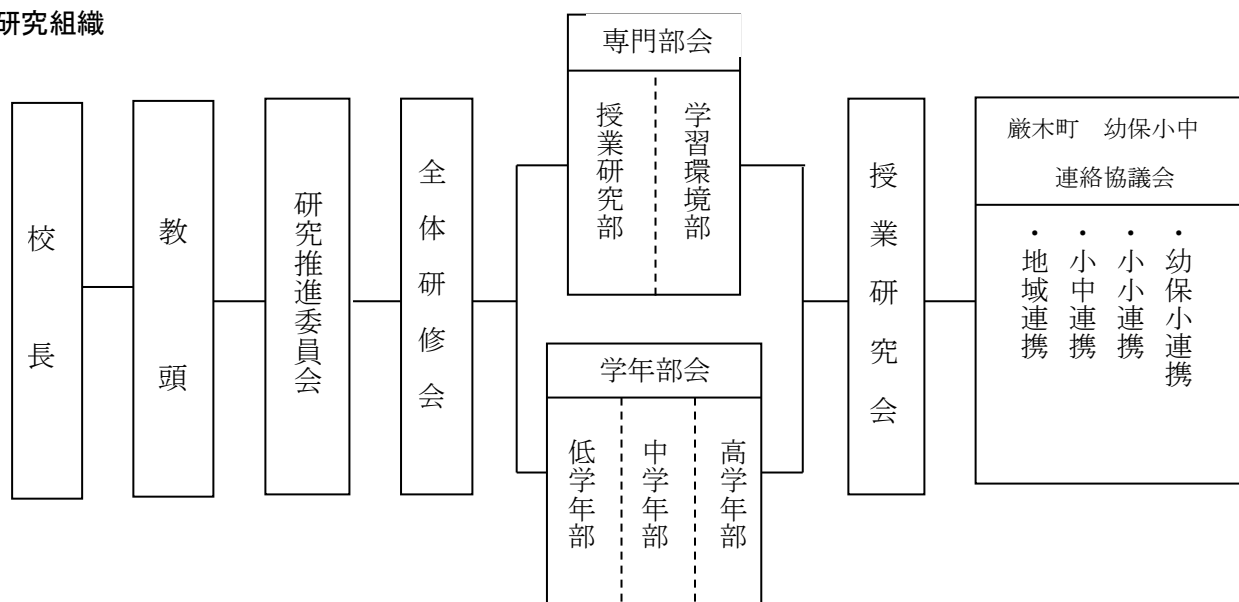
4 研究の仮説

外国語科・外国語活動の授業において、指導と評価の一体化を図り、言語活動を充実・深化させるための場面設定やコミュニケーション活動の工夫を行えば、関わり合う楽しさを実感し、主体的に思いを伝え合おうとする児童が育つであろう。

5 研究の内容

- (1) 英語を使って自分の思いを伝え合うモデルとしての教師の指導力向上の研修
- (2) 児童の実態に合わせた言語活動を取り入れた授業づくり
(学習指導要領における言語活動と評価に関する理論研究、教科書の活用、評価計画作成、小中連携)
- (3) 児童が関わり合う楽しさを実感するための評価の工夫
(アンケートによる事態調査、振り返りカード)
- (4) 安心して関わり合うことができる環境づくり、日常的に外国語に親しめる場の設定
(反応言葉、English Week の実施、日本文化・異文化について知るクイズや掲示)

6 研究組織



- ◎研究推進委員会 : 校長 教頭 教務 研究主任 副主任
- ◎低学年部（１・２年） : 野方, 古賀, 山田
- ◎中学年部（３・４年） : 片渕, 宮崎, 堤, 教頭
- ◎高学年部（５・６年） : 加山, 松尾, 教務

7 研究の計画

- (1) 研究期間と研究教科・・・ ３年計画（３年次）、外国語科・外国語活動
- (2) 仮説検証の方法をとり、授業研究会を検証の場とする。

(3) 年間計画

月 日	全体研修会	専門部	学年部
2020 年 4 月 2 日 (木)	・令和 2 年度の研究概要説明 (研究主題・研究内容, 日程の検討) ・外国語活動実施に向けての確認 (時数・ALT の配置等) ・専門部委員決定	・役割分担と目標, 活動内容の協議 ・職員研修 振り返りカード, 児童アンケート検討 ・外国語活動コーナー内容 English Week 検討 など	
4 月 3 日 (金)	・専門部の目標・活動内容等の提案 学年部		・役割分担と目標, 活動内容の協議 ・研究授業の日程検討
4 月 15 日 (水)	・研究概要の提案・検討 ・学年部の目標・活動内容等の提案		
5 月 8 日 (金)	・各専門部より提案	・準備作業 (職員研修 English Week など)	
6 月 3 日 (水)			・G 研, 全体研 指導案検討
6 月 17 日 (水)			・G 研, 全体研 指導案検討
7 月 28 日 (火)	・夏季休業中, 2 学期の日程提案	・夏季休業中, 2 学期以降の活動計画 検討 ・準備作業	
7 月 29 日 (水)	・専門部 夏季休業中, 2 学期以降の活動計画提案		・指導案作成作業
夏季休業中		・2 学期の活動準備	・G 研 全体研の指導案検討 (各学年部会ごとに)
8 月 22 日 (土)	・児童アンケート結果概要報告 ・2 学期の活動計画 確認		
9 月 3 日 (水)			・指導案検討
9 月 30 日 (水)	・授業研日程確認		
10 月 7 日 (水)			・授業準備
10 月 21 日 (水)		・準備作業	
10 月〇日 (〇)	全体研授業① ※講師招聘		
10 月〇日 (〇)	全体研授業② ※講師招聘		
11 月 11 日 (水)		・専門部より提案	・授業準備
12 月 24 日 (木)	・冬季休業, 3 学期研修計画・確認	・まとめ作成作業, 役割分担	・まとめ作成作業, 役割分担
1 月 12 日 (火)	・児童アンケート結果概要報告	・研究のまとめに向けて成果と課題の協議	
1 月 20 日 (水)	学年部		・研究のまとめに向けて成果と課題の協議
2 月 24 日 (水)	・各部より研究のまとめ報告 ・来年度の研究についてのアンケート実施		
3 月 19 日 (金)	・来年度にむけて研究の方向性について協議		